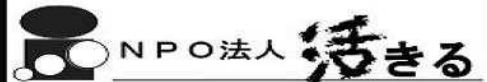




2010年3月31日 第10号
障害者の社会参加、自立・就労支援



〒302-0027 取手市駒場4-5-24
TEL/FAX 0297-73-8361
(平日 10:00~15:00)
メール npo_ikiru@ybb.ne.jp
<http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/>

ご挨拶

理事長 染野 和成

NPO法人生きるの新しい会報を皆様にお届けします。

生きるはボランティアの方々や、当法人を支えてくれている人たちによって運営されています。今年、当法人は5年目を迎えるにあたり、多くの方々に改めて心より御礼申し上げます。

この5年間、障害を持つ方の在宅支援、就労支援、移動支援等を念頭に置き活動してまいりました。時には「がむしゃら感」さえ感じることもありました。それは我々のため、障害を持つ仲間のため、自分のためという大きな目標を掲げたからでした。もしかしたら一人一人が無理をしていたかもしれせん。

そこで今年はそれまで行っていた各事業の見直しを図ることにしました。最近になって、当法人に関わり始めてくれている人たちと、以前からお手伝いいただいている方々を中心に、各事業をどうしたらよくなるのか、それなりの成績を上げられるのかを検討していただいております。

この春の年次総会には大筋をお知らせ出来ればと考えています。

また一方では、在宅支援を念頭に置いた新しい事業も立ち上げようと考えています。

近年、福祉制度が充実されていると思われています。しかし、本当にそうなのでしょうか。法の下にがんじがらめにされ、以前には行われていた福祉サービスが使えないという声が多々聞こえてきます。

私たち、重度の障害を持つ身は常に誰かの手を借りなければ、24時間の生活もままなりません。

緊急なときにどなたかに連絡したら来てもらえる、そんな安心感が常に持てたならば日常生活も心に余裕が出てくることでしょう。

来年度もまた忙しくなりそうです。皆様により一層のご支援をお願いしてご挨拶に代えさせていただきます。

ご存知ですか？

健康保険で在宅マッサージが受けられます！

お問い合わせ、ご相談などお気軽にご連絡ください。

オリエンタル治療院

〒301-0041 茨城県龍ヶ崎市若柴町 2183-9 TEL 0297-65-0985 FAX 0297-65-3323

◆◆◆リハビリスポーツ◆◆◆

平成21年11月～22年1月

昨年11月と今年1月のリハビリスポーツは、市役所裏の体育館で行いました。

最近は、参加人数が少なく寂しく思います。そんな中でも、興味を持って参加してくれた方がいました。僕達にとって新しい参加者が増えなかったのも、とてもうれしく思います。その一方で今まで協力してくれていた作業療法士さんが今回をもってボランティアを卒業され、ちょっと寂しい気持ちです。今まで本当に有難うございました。

今後は、もっと多くの当事者に参加して頂き、身体を動かす楽しさを知っていただきたい。そしてリハビリスポーツをもっと盛り上げ、長く続くよう、頑張ってください。ありがとうございます。

(勝山記)

参加者の声

1月24日に市役所敷地内の体育館（議会棟の裏）で生きる主催のリハビリスポーツが行われました。午前中は車椅子スラロームとテーブルテニスを行いました。車椅子スラロームでは他の皆さんは一分を切っただけですごいなと思いました。僕は一分三十五秒だったので今度は一分三十五秒を切りたいと思います。続いてテーブルテニスを行いました。ラケットをティッシュボックス等に対応してテーブルテニスを行いました。迫力あるいい試合をしました。午後からは吹き矢とポッチャと風船バレーをしました。吹き矢では全然前に飛ばなくて大変でした。ポッチャでは力の加減が難しく白いボールに赤と青のボールを近づけるのが難しかったです。最後に風船バレーをしました。楽しく風船バレーが出来てよかったです。とても楽しいリハビリスポーツでした。

(黒田記)



◆生きる総会のご案内

平成22年5月15日午後1時半より、取手市福祉交流センター、多目的ホールにて行います。皆様の参加をお待ちしています。

陶芸家手作りの 使いやすい 楽しく食べられる

笠間焼 介護食器

- ★新取手営業所にて、展示・販売中
お気軽に、お越しください。
- ★営業日 毎週水曜日 PM1:00～PM4:00
- ★お問い合わせ (祝・祭日を除く)
TEL 0297-73-8361

オーダーメイドも承ります

生きるの
ホームページから
購入できます！



◆◆◆ネットワークフェア◆◆◆

平成21年11月28日

毎年恒例のネットワークフェアが藤代総合スポーツセンターで市民と行政等の団体が協力し合ってネットワークを築こうと毎年開催されているもので、地元の野菜販売や模擬店、福祉団体の活動紹介やバザーと盛り沢山です。良い天気にも恵まれ、お客さんの出足も良く売り上げも上々でした。NPO 法人活きるでは、バザーの提供品と笠間焼のKDS食器（人にやさしい器）を販売しました。たくさんのバザー用品が集まり、お客さんが販売する品物を並べる前から我先に探し始める始末で、販売する方も大変でした。笠間焼のKDS食器も一人で幾つも購入して下さる方がいたり、少しずつではありますがKDS食器（人にやさしい器）は普及していると思いました。来年はもう少し販売をお手伝いして下さる方が増えると大助かりです。バザー用品を提供して下さった皆様有り難うございました。売上金は活きるの活動で有意義に使わせていただきます。（H.E）



ユニバーサルタクシー試乗実験 パートⅡ

当日は最悪の冷たい雨に見舞われて、屋外の実験はスタッフの方たちはびしょ濡れの中で行われました。研究所の旧テストコースはT×の開通に伴い別のところに移動しましたが、広大な敷地の中に研究棟や各種テストコースがあると思われます。研究所に到着後、現場の市街地コースに行きました。今回は前回実験に用いたトヨタポルテと日産セレナのスロープ車が2台用意されていました。雨なのでテントも用意されています。

早速実験開始で、まず平らな道路上で染野がセレナ2台のスロープ車に後部から乗降、車いすの固定などを行い、スロープの傾斜による車いすの操縦性、居住性などを研究員の方に感想を述べました。次に、UDタクシーに見立てたポルテに同様のことを行って、感想を述べました。

次に、場所を移動して傾斜のある道路上で、同じ内容の実験を行いました。2台のセレナにおきましては、スロープの傾斜角が大きくなったことで、乗降の際に昇りに関しては問題ないが、バックで降りる時は前輪が浮き気味になり不安があったようです。ポルテの場合は、横のりの特徴でスロープが道路と直角にあるので、乗降方向に対して横方向にも傾斜が加わり、車いすのハンドル操作？に大きな影響があり走行が困難だったようです。

次に、屋内実験棟で、車いすの方向転換の性能を確認しました。今回の実験目的は自分たちにはよくわからなかったのですが、この実験が研究成果に寄与できることを期待して、車いす障害者の移動手段が増えて、容易に外出できる時代が来ることを熱望します。（宮脇）



NPO法人活きる有償福祉移送サービス「いくべ〜」

- 移動が困難な障害者や高齢者の外出支援のため、活きるのボランティアが、有償で送り迎えいたします。

ボランティアドライバー 大募集 !!

お問合せ TEL/FAX 0297-73-8361 (平日 10:00~15:00)

- 障害者の介助ボランティアも同時に募集しています。
活きるの当事者会員の簡単な介助や見守り、活きるのイベントのお手伝い。

活きる生活サポートボランティアシステム

(活きるサポート)

NPO法人活きるのほとんどの障害者会員は普段の生活において、通所（デイサービス）や居宅サービス（ヘルパー）などの公共サービスを利用しています。また、家族がいる場合は家族に介助や生活支援を受けています。通常的生活を営んでいる場合は、なんら問題はないと思いますが、必ずしも通常の状態が続くとは限りません。

そんな時、NPO法人活きるに登録されているボランティアに支援を依頼するシステムの構築を検討しています。

通常でない状況とは

- 1) 公共サービスの計画に入っていない時、急に支援が必要になった時。
- 2) 公共サービスではやってもらえないような援助が必要な時。
- 3) 上記で、尚且つ家族でできない作業が生じた時、または家族だけではできない時
- 4) 介助者が急用、急病で介護ができない状態になった時。
- 5) 外出先で支援が必要になった時。
- 6) 災害時に当事者のことを理解してくれる公共サービスが得られない時。
- 7) 制度の変遷による（障害者→介護保険）安定した環境の担保
- 8) その他

この計画に協力して下さるボランティアを募集しています。
あなたの優しい気持ちを、私たちの生活に力を貸してください。

同時に下記のボランティアさんを募集しています。

- 魚販売の運営、販売
就労支援目的で冷凍水産品の販売をしています。
販売業務、仕入れ・在庫管理の運営
販売日は、毎週水曜日：新取手事務所
第1, 2, 3木曜日：中央タウン自治会事務所
第4木曜日：交流センター ふくろうバザール
- ネットショップの運営管理
笠間焼介護食器の販売サイトの運営管理
食器の在庫管理、仕入先との対応
- リハビリスポーツ
毎奇数月の第4日曜日、9：30～15：00
準備、片付け、障害者の行動補助
P/T, O/T, 看護師等の専門家のご協力も期待しています。
- 移送サービスの事務 駒場事務所
毎週月曜日 10：00～15：00
予約受付等の電話対応
管理システムへの入力
お問い合わせは 0297-73-8361（平日の10時～15時）



就労支援活動の今後の取り組みについて

「活きる」の主要テーマである障害者のための就労支援として水産品販売、笠間焼ユニバーサルデザイン食器販売および印刷事業の収益事業活動を実施しているところではありますが、本年1月から各々の収益事業活動の今後の在り方や取り組み方等について再検討するため関係者によるプロジェクトチームを立ち上げました。

水産品販売事業の営業収支改善のためには、新たな販路拡大が必要不可欠であり先ず第1段目として本年3月から毎月第1・2・3木曜日10:20～12:00の間、取手西の中央タウンにおいて出店販売を開始しました。初回販売日の3月4日には染野理事長、宮脇副理事長も顔を見せ、1時間半程でほぼ商品完売という成功裡に終わりました。今後も需要躍起が見込まれると思われる販売場所の開拓を推進するとともに、本事業を長期継続して行くためには販売を担当してくれるボランティアを確保していくことが絶対的条件でありますので、協力してくださる方の申し込みをお待ちしております。



取手中央タウンでの販売の様子 2010年3月撮影

笠間焼ユニバーサルデザイン食器販売については、現在、新取手店での常設展示販売、各種イベントでの即売、更にはインターネット販売とこの3本柱で行っているが、いずれの場合も満足出来る域に達していないのが実情です。原因はいろいろあると考えられるが、多くの消費者の方々がこの商品の存在そのものをご存知ない又は目に触れる機会が殆どないことが最大の要因と考えられる。従って、先ず不特定多数の方に商品の内容を知って貰うために現物食器の展示場所を増やしていくこと、公共機関に商品パンフレットの配布・備付けを要望すること、ミニ商品説明会の開催等々を実践していく活動を考える。又、インターネット販売についても、商品にアクセスする来訪経路を幾重にも増やすことを構築すると共に消費者の購買意欲を掻き立てるような商品表示の見直しやより使い易いホームページ等早急に改善を図っていくことにしている。他の事業については、継続して検討する。

(中川記)



2009年度 ひとにやさしい器展 in 取手の様子

今年の冬は、いつもより寒く感じましたか？それとも、暖かく感じましたか？

先日の新聞に、介護保険の福祉用具貸与（レンタル）のベッドのレンタル料（月額）に7倍の格差があるとの記事が出ていました。障がい者の制度の場合、福祉用具は購入になると思いますが、障害福祉サービス（ヘルパーやショートステイ）と同様に上限が決まっているので価格の格差があっても自己判断で購入するということになると思います。

なぜ、こんな格差が生じても個々の利用者から苦情が出てこないのか？答えは、ケアマネジャー任せと高齢者は情報がないということ。最大の理由は介護を市場開放したことだと思っけています。以前にも、お話ししましたが行政のチェック機能が確立されていないのに市場開放するということは、他の業種と同じですがアクドイことをする業者が現れるのは当たり前のこと。ほんの一握りのアクドイ業者のために、真面目にやっているほとんどの業者に縛りをかけていく行政&法律。そのトバッチリは、利用者に全面的に波及してしまふ今の制度・・・。

先日、障がいをお持ちのお子さんを持つお母さんたちと井戸端会議をしたのですが、お母さんたちの要望と制度がまったく噛み合わない。障害福祉サービスは、笑ってしまうほど介護保険制度を追いかけています。前述したように、介護保険がドンドン規制がかかってしまうということは、障害福祉サービスもドンドン規制がかかっていくということ。お母さんたちと話しをしているとドンドン気持ち下がっていくことになってしまふ方程式ができあがっていきます。

現政権が、障害者自立支援法を「廃止」するとマニフェストで明記していますが、はたしてどんな制度になるのかな？？1000兆円の借金を背負っている日本・・・。経済のアナリスト達は日本は潰れると異口同音に口にします。

私キューピットがいつも言っている「自己判断」「自己防衛」しましょう！その第一歩は色々な方と積極的に出会うことです！

優しいキューピット

※法律用語は「障害」、話し言葉は「障がい」とさせていただきます。

アピールウォーク

平成21年12月12日

障害者週間に行うイベントで、とりで障害者ネットワークに加盟する17団体と個人会員が自分たちの存在を地域に知らせ、地域で生きていく姿勢をアピールする。

アピールウォークとは「とりで障害者協働支援ネットワーク」が毎年12月に障害を持った人や家族・ボランティア・私たちの活動に賛同していただいた方たち総勢百人からなる行進は圧巻。取手市で初冬の風物詩になりつつある。（染野記）

参加者の声

当日は天気にも恵まれ、最高のアピールウォーク日よりになりました。今回も生きるだけでなく、たくさんの団体が参加しました。コースは福祉交流センターから取手駅西口までの約3,5キロでした。途中、道がせまい場所があり、ちょっとドキドキしました。そしてしばらく歩いていると町行く人から「頑張って下さい」などの温かい言葉をかけてもらいました。アピールウォークは今回で3回目を迎えますが、初回は町行く人がひややかな目で見ていましたが、今年のように温かい言葉をかけてくれるということは、いろいろな人が障害者を理解してくれている成果かなと思っています。（H・K）



◇◇◇◇◇日光市で講演◇◇◇◇◇

平成22年2月17日

日光市介護サービス事業者連絡協議会が開催している研修会の中で宮脇夫婦の在宅介護のことを話してきました。受講対象は、日光市で活躍されている介護保険事業所の管理者、ケアマネさんです。

妻の病気の発症から、入院、手術、病院生活、退院、そして在宅介護を始めたことを簡単にまとめて聞いてもらいました。

次に、在宅介護生活に入ってからのエピソードを交えて、ネットを通じて目を外へ向けるようになり、宮脇家を支えてくれた多くの地域の人たちとの出会いがあって生活が成り立ち、そしてNPO法人活きるの活動を始めるきっかけを聞いてもらいました。その後、障害者、介護保険の制度の変遷で多くの矛盾や納得できないことを話して、会場の介護に関わっている方に、今の環境で精一杯利用者のことを理解して仕事に携わっていただくようお願いしました。



(宮脇貞夫)

◇◇◇◇◇障害者(児)支援ボランティア入門講座◇◇◇◇◇

平成22年3月2日

取手市社会福祉協議会の主催で、障害者(児)支援ボランティア入門講座が開催されました。毎年行われているもので、身体障害、知的障害、それから障害者福祉制度や団体紹介について3日に分けて開催されます。そのうちの身体障害者の介護と実習についてNPO法人活きるの宮脇が担当しました。

講座の前半は、宮脇満理子の病気発症から入院、手術、退院の経緯から在宅介護に入り、全く未知の世界に置かれて五里霧中の中からいかにして外へ目を向けるようになったか、そして多くの人との出会いや支援で生活が立つようになり、その恩返しのためボランティア活動を始めたことを聞いてもらいました。

そして、NPO法人活きるの活動内容をお話しし、障害者家庭においてボランティアの役割と必要性を訴えました。

休憩を挟んで後半は介護実技の実習です。まず、身体障害者の一般的なアイテムとして車椅子の取り扱い方や段差乗り越え、坂道走行などを学んでいただきました。また、車椅子で階段昇降の介助方法も見てもらいました。

次に、ベッドと車椅子間の移乗介助について腰に負担のかからない2種類の方法を見てもらいました。

受講者の皆さんは熱心に聞き入り、実習も積極的に参加されていました。これを機会に、障害者を理解し、支援ボランティアに参加していただけることを期待します。

今回の受講者は10人で、例年の半分でした。もっとボランティアの必要性を訴え、意識を高めてもらうようなPRの必要性を痛感しました。

(宮脇記)



言いたい放題

先日、新聞に障害を持った児童の普通学校の就学についての記事があった。障害を持った子供を普通学校に入れたいと思う親は、みんなと同じように学校生活を送らせたいと思うからだ。しかし、ちょっと待ってほしい。

昔に比べれば、障害者（児）に理解し始めてはきているが、欧米に比べればまだまだである。だからと言って引いてはいけないと思う。学校生活において、色々なことが起こるがそのことについて、学校・先生・生徒・本人・それと親が起こったことに正面と向き合って解決していけるか。いじめ、これは必ずある、と思う。その問題についてどう対処していくか。学校が、先生が、生徒が、本人が、親が、どう対処する。普通の子供であっても、強い気持ちを持っていなければ死を選ばざる負えなくなれほどすさまじいじめに、そんな中で障害を持った本人や親がどう対処していくか。

● ありがとう ●

寄付、助成

- ◆取手社協
歳末助け合い配分金：42,000円
- ◆取手社協
助成金：50,000円
- ◆県社協
ボランティアサークル助成金：25,000円
- ◆木下財団
車いす用高さ可変テーブル・書庫セット
- ◆オリエンタル
寄付：60,000円
- ◆移送利用者
寄付：50,000円
- ◆茨城ヤナセ
セカンドバック・栓抜き・名刺入れ
- ◆バザー販売用提供品多数

● 有り難うございました ●

今後の活きるの活動に有効に利用させていただきます。

編集後記

「活きる」設立5年、「窓開けて」の編集に携わって4年、「活きる」の活動の姿を、皆様に伝えてきましたが、今後も「活きる」の活動を、紙面を通じてお知らせ致します。 編集担当 鈴木 澄利

平成22年 3月7日発行
発行所 NPO法人 活きる
発行者 染野 和成
編集者 鈴木 澄利
連絡 〒302-0027 取手市駒場4-5-24
TEL/FAX 0297-73-8361
(平日 10:00~15:00)
メール npo_ikiru@ybb.ne.jp
<http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/>

活動会員・賛助会員を募集しています

一緒にNPO法人 活きるの活動に参加してみませんか
皆様のご参加をお待ちしています。

活動会員 個人・年会費 2,000円
団体・年会費 3,000円

賛助会員 個人・年会費 1口1,000円 1口以上
団体・年会費 1口2,000円 1口以上
(活動・賛助会員の総会議決権はありません)

ご寄付の振り込みも、下記口座までお願いいたします。

振込先

・郵便振替 00190-7-778948

口座名義 「特定非営利活動法人活きる」